

○意見提出者10名(意見総数18件)

○貴重なご意見ありがとうございました。提出された意見の概要及び市の考え方は次のとおりです。(以降、「(仮称)屋代スマートインターチェンジ」を「屋代SIC」と称しています。)

No.	意見の概要	意見に対する市の考え方
1	このプロジェクトは本当に成功させてもらいたい。スマートを中心に施設が隣接されると思うが、魅力ある店舗の出店を期待する。よく見かけるのが大型量販店の支店とか電気屋や靴屋、ドラッグストアは長野南ショッピング通りにあるので本当に必要なか検討してほしい。他の市からでも遊びに来れるような施設の検討をお願いする。長野には天気の良い日に行ける遊び施設が少なく、少年科学センターぐらい。前橋にあるプレーベル館KinderPlatzみたいな施設が理想。構想が難しいと思うが、より良いまちづくりをお願いする。	店舗の出店については、民間事業者による開発行為のため市として直接的な誘致はできません。しかし、市は商業ゾーンに関して、屋代SICの利便性を活かし、観光交流の拠点とするとともに、日常生活における利便性の向上と賑わいの創出に資する集客・交流施設を立地すること、方針としておりますので、その方針に沿うよう事業者へ求めてまいります。天気の悪い日にも行ける施設に関しては、今回の本方針策定過程でも市民からご意見として頂いており必要性は認識しております。具体的な施設内容や整備手法については、今後の検討課題となりますが、地域ニーズを踏まえながら、民間事業者等とともに連携し、どのような機能が求められるか検討してまいります。
2	交通拠点ゾーン・産業ゾーンについて賛同する。高速道路へのアクセス向上という屋代SICの整備効果は、産業ゾーンおよび交通拠点ゾーンにおいては一定の合理性を認める。もともと、整備範囲は真に必要な機能に絞るべきである。交通拠点ゾーンと産業ゾーン以外のゾーンは、次の連鎖の上に成立していると考えられる。「商業ゾーンの成立 → 生活利便性が確保される → 住宅ゾーンの成立 → 人口が定着する → 公共文化ゾーンの成立」。しかし最初の前提である商業ゾーンの成立が疑わしく、根底から崩れるリスクを抱えている。上信越道道沿線の須坂市に大規模商業施設が開業、千曲市の商圏人口・吸引力係数はすでに縮小傾向にあり、購買力の域外流出が加速する状況にある。商業ゾーンは、この環境下で須坂市の施設に対抗できるほど魅力的な商業施設を屋代SIC周辺に誘致するのは困難である。市外からの新規需要を生むのではなく、既存の国道18号沿道・屋代駅前商店街の顧客を奪うにとどまり、市全体の商業総量は増えないと考える。	商業ゾーンは単に商業施設を誘致するのではなく地域の特色を活かし、生活利便性の向上や他ゾーンとの相互作用によって新たな価値を創出するネイバーフット型の施設の立地誘導を方針としておりますので、その方針に沿うよう事業者に求めてまいります。
3	千曲市全体が自家用車を前提とした街であり、公共交通への依存度は低い。自家用車があれば、既存市街地からでも産業ゾーンへの通勤は可能であり、近接を理由に住宅ゾーンへの住宅地を選ぶ理由には乏しい。また、千曲市は立地適正化計画においてコンパクトシティへの誘導を市の政策として掲げており、既存市街地への居住集約を推進している。新たな郊外住宅地の造成は政策との整合性が問われる。	住宅ゾーンは、単なる近隣の通勤者だけでなく遠方からの転職者や新たに千曲市で仕事を始めるUJターンの人々もターゲットにしたものであります。特に都市部から移住する家庭や集合住宅から戸建て住宅を考える人々への需要も満たすものと想定しております。加えて、産業ゾーンへの企業立地に伴い、新しい労働力が必要になることも想定されますので、住宅需要は十分に高まる可能性があると考えます。また千曲市立地適正化計画において、屋代SIC周辺地区を「準誘導区域」として設定し、具体的な開発計画が進み、エリアの土地利用計画が定まった段階において、速やかに用途地域などの都市計画を定めるとしてまいります。
4	No.3の理由により、住宅ゾーンへの人口定着が見込めない以上、定住人口の裏付けなき公共文化ゾーンの施設整備は、将来の維持管理コストを市財政に長期固定することになり、人口減少が不可避な状況下では、その負担は将来世代に先送りされるだけである。	公共文化ゾーンは、単に住宅ゾーンに住む方を対象としているだけでなく、産業ゾーンと近接し、交通インフラも整うことから、市内外問わず子どもから大人まで幅広い世代の方を対象にしております。また学び、遊び、交流できる、市内の拠点的なサードプレイス(居場所)として整備するとともに、公民連携による運営を通じて、市全体の子育て支援や暮らしの価値向上につながる施設立地を方針としており、周辺には森將軍塚古墳や長野県立歴史館などこの地域ならではの歴史的・文化的な施設が隣接していますので、これらの施設と連携することで他地域にはないユニークで魅力的な空間形成が可能と考えます。
5	農業観光ゾーンについて、イメージでは「商業ゾーンでの買い物あとの農業体験を楽しむ」「公共文化ゾーンと連携して農業学習を提供する」と掲げている。しかしこれは、商業ゾーン・公共文化ゾーンの成立を前提とした構想であり、3及び4で述べたとおり商業客も定住人口も見込めない以上、既存のあんずの里アグリパークを超える新たな集客を生む根拠はない。	それぞれのゾーンが持つ独自の魅力や特色をうまく組み合わせることで農業観光ゾーンへのさらなる集客は十分に可能だと考えます。
6	必要性感じません。もっとやることあるんじゃないんですか？道をつなげる計画も…立退させるんですか？新築のほうも…当然全額保証できるから道繋げるんですよ？もっとやることありませんか？暇なんですか？やった感、提案した感…自分の優越感が知りませんが…計画浅はかすぎませんか？利益ありますか？数字見ましたけどそんな利益出ないと思いますよ？サテライトの二の舞になるんじゃないんですか？戸倉潰したい理由でもあるんですか？屋代に執着する必要があるんですか？	屋代地域は更埴ICや更埴JCTのある高速道路網の結節点としてその優位性を活かし、屋代SIC設置でさらなる千曲市全体の地域活性化、交通利便性の向上、産業促進、防災性向上に寄与することを想定しています。本方針は、市全体の活性化を牽引する新たな交流拠点となるようなまちづくりを目指しており、その中で戸倉上山田温泉をはじめとする市内各拠点との連携を強化し、市内外からの人の流れを各拠点へと波及するハブとして整備してまいります。
7	屋代SIC周辺に是非スケートボードパークが欲しいです。千曲市に若者が集える場所が少ないと感じます。実際自分自身もスケートボードを行っています。最近スケートボードはカルチャーからスポーツへと世間からの見え方も変わってきていると感じます。結果小さい子の人口が圧倒的に増えてきています。子供の遊び場を増やしてあげて欲しいとともに千曲市の活性化にもつながると思います。もし作ってもらえるならば、設計などはスケーターが関わったほうがいいと思います。	本方針策定過程においても、子供から大人までが集え安心して遊び過ごせる施設や場所が欲しいとの声は頂いており、その必要性は本市としても認識しております。具体的な施設内容や整備手法については、今後の検討課題となりますが、地域ニーズを踏まえながら、民間事業者等とともに連携し、どのような機能が求められるか検討してまいります。

	<p>プロローグ: 屋代SICという「宝塔」の出現 交通の結節点という物理的な機能は仮の姿に過ぎません。そこは、自動運転(水素自動車)という情報の粒子が血液のように行き交い、人と自然、過去と未来のカルマ(業)が交差する**「縁起(えんぎ)の中心点(ピンドウ)**です。 ここを核として、すべての学問と芸術、そして虚空蔵菩薩の無限の記憶(データ)が織りなす「六つのゾーン」が蓮華の華弁(はなびら)のように開花していきます。</p> <p>第一の華弁:【歴史と大地の記憶ゾーン】～考古学と虚空蔵智の融合～ (森將軍塚古墳・科野の里エリア) ここは時間が直線ではないことを悟る空間です。AR(拡張現実)グラスをかけると、目の前の風景に千数百年前の科野(しなの)の営みがホログラムとして立ち上がります。AIが膨大な地質学と考古学のデータを解析し、虚空蔵智(宇宙の無限の記憶庫)にアクセスすることで、名もなき古代人の声や風の匂いまでを再現します。古墳に立つとき、禅の直感が閃きます。「彼らは過去にいない。今、この瞬間の私の中に共に生きているのだ」と。生と死の境界は空に溶け、歴史は悲しみではなく、圧倒的な生命の賛歌として感情を揺さぶります。</p> <p>第二の華弁:【調和する自然と農のゾーン】～生態学と三草二木の譬え～ (一重山・周辺農地エリア) ドローンや土壌センサーが飛び交う最先端のスマート農業が展開されるエリアですが、その根底に流れるのは法華経の「三草二木の譬え(さんそうにもくのたとえ)」です。 大雲から降る雨が、名もなき草から巨大な樹木まで、それぞれの器に応じて平等に潤すように。AIとIoTが制御する水と光のアルゴリズムは、経済合理性だけでなく、一本の稲穂、一匹の虫の「仏性(ぶつしょう)」を最大限に輝かせるための慈悲のテクノロジーとして機能します。植物学と農学が詩的な芸術へと昇華され、夕暮れ時の黄金の稲穂の波は、見る者の魂を浄化します。</p> <p>第三の華弁:【次世代産業と創造のゾーン】～量子物理学と事事無礙法界～ (新たな事業所・イノベーションエリア) クリーンエネルギーと量子コンピューターが駆動する産業エリア。ここでは、物理学と情報工学が極限まで煮詰められ、「物質の実体は存在せず、すべては情報のゆらぎ(空)である」という哲学的な真理をテクノロジーで表現しています。 働く人々は労働の苦役から解放され、プログラミングや設計を「三昧(さんまい=深い瞑想状態)の中で行います。一つのアイデアが世界の裏側の誰かを救う。すべてが障りなく繋がり合う「事事無礙法界(じじむげまっかい)」のビジネス・モデルです。</p> <p>8 第四の華弁:【賑わいと交流の広場ゾーン】～社会学・経済学と霊山の法座～ (商業・交流施設エリア) これはショッピングモールではなく、現在の「霊鷲山(りょうじゆせん=ブツダの説法地)」です。MaaS(モビリティ・アズ・ア・サービス)によって誰もが自由に移動できるこの空間では、消費ではなく「交換」と「感謝」が流通します。顔認証とブロックチェーンが瞬時に「誰が何を必要としているか」をマッチングさせ、笑顔で手渡される地元の果実や手工芸品が、孤独(無明)を癒す特効薬となります。社会学的な孤立はここで解体され、見知らぬ人との挨拶の瞬間に、菩薩道(ぼさつどう)の実践を見出します。</p> <p>第五の華弁:【未来を育む居住空間ゾーン】～建築・心理学と日常の禅～ (新たな住宅・暮らしエリア) この居住空間では、スマートハウスが住人のバイタルデータ(心拍数・呼吸など)を読み取り、AIが家族の「心の揺らぎ」に寄り添って、光、温度、音楽を微調整します。しかし、これらは決して人間を甘やかしているわけではありません。掃除、料理、寝起きといった、生活の泥臭くありふれたすべての行為(行住坐臥=ぎょうじゅうざが)そのものが尊い「一乗(いちじょう=誰もが見捨てられず成仏する教え)」の道であると悟らせてくれる空間設計です。家族が笑い合うささやかな食卓の向こうに、壮大な宇宙の慈悲が透けて見えます。</p> <p>第六の華弁:【憩いと遊びの森ゾーン】～教育・芸術と地涌の菩薩～ (公園・子育て支援エリア) 子どもたちが遊ぶ公園には、遊具という名のインタラクティブ・アートが並んでいます。遊び(運動エネルギー)を通じて街の電力を生み出すこの場所で、彼らは「地涌の菩薩(じゆのぼさつ=大地を割って湧き出る無数の若き菩薩たち)」のごとく躍動します。 大人はその姿を見つめるだけで、生命の根源的な肯定感に打ち震え、涙を流すでしょう。「ああ、すべては空(くう)であり、幻のように移りゆく世界であるがゆえに、この一瞬一瞬の子供の笑い声が、永遠に等しいほど美しいのだ」と。</p>	<p>今後のまちづくりの参考として承ります。</p>
9	<p>開発に伴って周辺道路の渋滞を心配しています。国道へのアクセスに混乱が生じないように一重山線の整備延長を優先して取り組んでいただきたい。</p>	<p>屋代SIC周辺地区のまちづくりを進めるにあたっては、各ゾーンの開発と同時に周辺の交通流の適正化を図ることも重要であると認識しており、都市計画道路一重山線の早期全線供用開始を目指してまいります。</p>
10	<p>千曲市の人口は年々減少していますが、産業ゾーンへの企業誘致にあたっては、女性が魅力を感じるような企業に声掛けするなどしていただきたい。</p>	<p>産業ゾーンへの進出企業については、民間事業者による開発行為のため市として直接的な誘致はできません。しかし、市として産業ゾーンを若年層の定住やUIJターン希望者の雇用の場となることを方針としておりますので、その方針に沿うよう事業者に向けてまいります。</p>
11	<p>スマートインターチェンジ周辺施設の建設にあたり以下の点を検討して頂きたい。 ・室内遊具を併設した施設 現在市内は室内で利用できる大型遊具がないので、雨の日でも市内市外の人が遊びに行ける施設が欲しい。また全ての子供が楽しめるようユニバーサル遊具を取り入れてもらえると助かる。 そのまま飲食や買い物を楽しめる店舗もあると経済効果も上がると考えます。 ・駐車場とトイレ 車椅子の医療ケア児がいるので、車椅子用駐車場は後方に車止めや看板等ないと助かる。また車椅子用トイレもSAのように折り畳みケアベッドがあるといい。</p>	<p>本方針策定過程においても、子供から大人までが集え安心して遊び過ごせる全天候型の施設が欲しいとの声は頂いており、その必要性は本市としても認識しております。具体的な施設内容や整備手法については、今後の検討課題となりますが、地域ニーズを踏まえながら、民間事業者等とともに連携し、どのような機能が求められるか検討してまいります。</p>

12	<p>エネルギーインフラを担う企業として、貴市のまちづくりに貢献すべく以下の通り意見を提出させていただきます。</p> <p>P.6 (4)上位・関連計画における屋代SIC周辺地区の位置付け ① 第三次千曲市総合計画(令和4年4月)</p> <p>【追記案】基本目標6「未来に繋げる自然と共生するまち」 達成方針1「地球環境保全」一人ひとりが地球を大切に作る社会をつくる 国は「改正地球温暖化対策推進法」を公布、令和32(2050)年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする脱炭素社会の実現を法律で明確にしました。県では全国に先駆け令和3(2021)年6月に「長野県ゼロカーボン戦略」を策定し、市では令和2(2020)年2月に「気候非常事態宣言」、また、令和4(2022)年2月に、当市を含む長野地域連携中枢都市圏9市町村共同による「2050年ゼロカーボン宣言」を行い、市民一丸となって温暖化対策に取り組むことを表明しています。 地球温暖化をはじめとする地球環境問題を市民・事業者・行政が共通の課題として認識し、環境にやさしいライフスタイルの実践、環境に配慮した事業活動や公共事業を推進し行動するなど、それぞれの役割のもとで、持続可能な社会をつくれます。</p>	<p>「(4)上位・関連計画における屋代SIC周辺地区の位置付け」はタイトルの通り、「屋代SIC周辺地区の位置付け」を記載する項目であり、特に土地利用の観点から、上位・関連計画の関連事項を記載するものです。ご提案の内容は、上記に該当せず、他の整理項目とのバランスの観点から追記することはしませんが、市としては環境行政において、総合計画に基づく施策を推進してまいります。</p>
13	<p>P.107 4 防災対策の方針 (1) 水害リスクへの対応 【原文】・建築物における電源設備等の耐水・浸水対策による停電や機能停止の防止を誘導 【追記案】・建築物における電源設備等の耐水・浸水対策、自立分散型電源の導入など、供給エネルギーの多重化・分散化による停電や機能停止の防止を誘導</p>	<p>ご提案の自立分散型電源が、供給エネルギーの多重化・分散化という点で、広義では「水害リスクへの対応」になることは承知しておりますが、本項目は、国土交通省住宅局建築指導課・経済産業省産業保安グループ電力安全課「建築物における電気設備の浸水対策ガイドライン」(令和2年6月)を踏まえており、建築設備の浸水対策を主眼として記載しています。自立分散型電源については、非常時の役割だけでなく、環境面、経済面等の多様な効果があり、その導入は、防災以外の効果も含めて事業主体となる民間事業者の判断となりますが、ご意見も参考しながら、民間事業者と協議してまいります。</p>
14	<p>P.107 4 防災対策の方針 (3) 避難者の受け入れ環境の整備 【原文】・太陽光発電・蓄電池システムなど、地球温暖化対策と両立した災害時の非常用電源の確保 【追記修正案】・太陽光発電・蓄電池システム、ガス空調、ガスコージェネレーションシステムなど、地球温暖化対策と両立したエネルギーセキュリティの確保</p>	<p>ガス空調、ガスコージェネレーションシステム等の導入によるエネルギーセキュリティ確保についてご意見をいただきました。これらの手法は一定の人口・都市機能の集積がある都市部において有効な対策であると認識しております。一方で、本地区は、地域特性やエネルギーインフラの状況等を踏まえると、現時点では太陽光発電・蓄電池システムを中心とした導入が現実的かつ効果的と考えられ、今回例示しているものです。なお、「太陽光発電・蓄電池システムなど」としており、太陽光発電・蓄電池システム以外を否定するものではありません、ご提案の内容につきましては、今後の技術動向やインフラ整備の状況を踏まえつつ、必要に応じて検討するとともに、具体的なエネルギー設備やシステム等については、事業主体となる民間事業者の判断となるため、ご意見も参考しながら、民間事業者と協議してまいります。</p>
15	<p>本計画の一重山線は数十億円の投資で開通するものであり、公民連携のまちづくりということで、「開発を担う民間事業者との連携による魅力ある商業、産業、住宅の空間形成」として、関係する地域の利便性ととも、市内東部地区(森・倉科・雨宮・屋代)住民全体の暮らしを守り、環境整備を果たす位置づけを進める事が必要であり、市がもっと積極的に関与(提案)して、下記理由により、商業ゾーンには、同計画地域内にあるA・コープあんず店の移転開設を中心に進める事を望みます。</p> <p>理由 ○ A・コープあんず店は、本件事業のため移転を余儀なくされているが、既存の施設として市内東部地区唯一のスーパーとして、好評価を得て利用されている。 ○ 市内東部地区は、近年特に荒廃農地が多く、山林と畑の関連から、熊の出没も多くなっている。 荒廃農地を活用するためには、自家用野菜づくりと共に、一定の販売ルートが必要であり、現在『あんず店』内にある、地物直売制度での利用、発展が必要不可欠である。 ○ 地物直売のためには、併設して一定の来客が見込める販売店が必要であり、また作物の育成、販売には農協という、地域農業者組織である協同組合の指導、協力のなかで持続発展していくものと考えます。</p>	<p>商業ゾーン、産業ゾーン、住宅ゾーンに関しましては民間事業者による事業であり、施設誘致や配置については、事業者の判断により決定されるものであることから、市が直接的に関与することは困難であります。しかしながら、東部地区の市民にとつて当該店舗は、日常生活を支える重要な役割を担っているものと市としても認識しており、市民からも存続を望む声や今後のご懸念の声は多くいただいております。また本方針におきましても、商業ゾーンについて日常生活における利便性の向上や地域の特産品や新鮮な食材の販売・飲食、ネイバーフット型商業機能とすることを方針としておりますので、その方針に沿うよう事業者に求めてまいります。</p>
16	<p>公共文化ゾーンでは、安曇野市図書館や、富山市図書館、信州の幸あんずホールの更埴図書館にある貸し出し用のDVDプロフェッショナルの建築家の方の中にあるようなコンペティションで、デザインされた、建築物自体にも魅力があり、そこに県内外からも人が建築自体を見に行きたいと思うほどとも魅力的な建物を是非建設してほしい。</p>	<p>公共文化ゾーンの整備にあたっては、(仮称)屋代スマートインターチェンジ周辺地区を特徴づける眺望景観への配慮の中で、建築物の規模や配置、意匠・形態、色彩等について周辺環境との調和を図ることを方針としております。</p>
17	<p>商業ゾーンに関しては上田のアリオの中にあるロピアを是非誘致してほしい。また農産物直売所を作り、中野市にあるオランジェのように一袋110円ぐらいで何でも買えるような魅力的で人々が並んででも入っていききたいような直売所が欲しい。また、駒ヶ根市のシルクミュージアムの中にあるような、地元の食材をふんだんに使ったバイキングのお店や、下伊那の方にある魅力的な道の駅のようなものを作って欲しい。今、道の駅は人が入らなくて、閉鎖してしまうところがたくさんあるので、例えば、信州新町の道の駅にはそば信という蕎麦屋さんがあり、そばを食べる目的で訪れたり、また信州新町の美味しい矢島製パンの牛乳パンをを買うために道の駅自体を訪れたいというように魅力的なそこにしかないものを是非誘致して欲しい。この辺にない、ロピアやビッグなどの魅力的なスーパーを100円ショップと共に誘致してほしい。</p> <p>できることなら、温泉のような入浴できる施設もあるとさらに嬉しい。</p>	<p>店舗の出店については、民間事業者による開発行為のため市として直接的な誘致はできません。しかし、市は商業ゾーンに関して、屋代SICの利便性を活かし、観光交流の拠点とするとともに、日常生活における利便性の向上と賑わいの創出に資する集客・交流施設の立地することを方針としておりますので、その方針に沿うよう事業者へ求めてまいります。</p>
18	<p>人は花のあるところ、特に桜の花を見るためになら、弘前まで行ったり、遠くまで足を伸ばす人がいるので、桜の花やチュウリップの名所、秋の紅葉のもみじの木を今から植えて、蓑輪町のもみじ湖のように、30年後日本一大人気の紅葉の名所になるような、人々が全国から集まるような場所を作るといいと思う。</p> <p>富山県の朝日町も、特に何も無い畑に、春の四重奏というキャッチフレーズで、桜と菜の花とチュウリップと館山連峰の4色の色を見に、本当に多くの人が集まる。千曲市も、森將軍塚古墳に登る坂道に桜の木をずっと植えて、そこを桜の名所にしてみてはどうか。</p>	<p>屋代SIC周辺地区では、地域のシンボリックな自然資源である一重山や屋代田んぼなどと都市機能の調和に配慮しながら、市民や来訪者が心地よさを感じられる空間の創出を基本に、緑を基調とする骨格的な景観のシンボル空間の形成やゾーンの特性を踏まえた公園・オープンスペースの配置、眺望景観の確保、建築物の形態・意匠などについて一体的な誘導を図ります。</p>